

平成26年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション) (学校の使命)	小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。
			(ビジョン) (将来の学校像)	アメニティ環境に包まれる学校 ・行くのが楽しみな学校の実現。 ・会うとうれしくなる先生の育成。 ・会うとうれしくなる仲間の構築。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	【現状 (○成果●課題)】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中一貫教育を推進する組織体制が確立しており、小学校と中学校の一体的な学園運営が軌道に乗っている。</li> <li>○ 平成25年度に改訂した学校教育目標『自分を創る』を意識した自立的な教育活動が展開できるようになった。</li> <li>● 小中一貫教育校の設立当初の組織やシステムが残っており、これらの見直し及び小中一貫教育による教育活動の質的向上を図る必要がある。</li> <li>● 「ことば」「いのち」「まなび」をキーワードとして各教育活動を行ったが、特に「まなびの質の向上」では、生徒の変容をみとる取組が不十分であった。</li> <li>● 自分の気持ちを言葉で表現することやかけがえのないいのちの醸成を図ることは、本校教育の基盤として継続する必要がある。</li> </ul> <p>上記の現状より、次の4点を今年度の重点とする。</p> <p>①思考力・表現力を育む指導の改善 ②自分の思いを表現できる力の向上 ③かけがえのないいのちであることの自覚の醸成 ④体力・運動能力の向上</p>

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。 <b>貫</b>	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	自治会長会、民児協、補連協等と連携し、地域と共に「あいさつのできる」警固屋っ子を育てる。	「自分を創る」の言葉のレベルが3(規律)以上を達成できる生徒の割合。	90%	77%	86%	B			
		○生徒の「ことばの力」を高める。	朝読書、図書委員会の啓発活動等により、読書習慣の形成を図る。	地域での児童・生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合。	80%	86%	108%	A			
		○自分の思いを表現する力を高める。	自立ノートを活用し、振り返りの欄に自分の思いを表現させる。	1か月に1冊本を読み切る生徒の割合。	自立ノートに自分の気持ちを綴ることのできる生徒の割合。	90%	48%	53%	C		
**	かけがえのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないいのちであることを自覚できる。	道徳教育の重点目標を「生命尊重」とし、教育相談や自立ノートを効果的に活用する。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価。	100%	91%	91%	B			
		○いじめを許さない学校風土を作る。	・教職員の日常的な生徒の実態の把握による早期発見体制の整備 ・生徒会によるいじめ撲滅に係る主体的な活動に実施。	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答。	100%	99%	99%	B			
***	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力、表現力を高める。	日常の授業において、生徒が自分の考えを表現する場の設定を工夫する。(授業展開モデルによる)	「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙の思考力に係る項目の肯定的評価の割合。	85%	67%	79%	C			
*		生徒の体力向上を図る。 <b>貫</b>	○課題のある柔軟性を向上させる。	保健体育科及び部活動の準備運動等において、柔軟性を高める運動に継続して取り組む。	長座体前屈の県平均を上回る生徒の割合。	70%	52%	74%	C		

【k:評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

平成26年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	地域の方の86%が、肯定的評価をされている。地域が明るくなった感じがするとの感想もあり、取組の成果が出ている。しかし、「自分を創る」の言葉のレベルを3(規律)以上にすることについては、77%にとどまっている。気持ちの良いあいさつと返事についての意識が不十分である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同で取り組むあいさつ運動などを継続しつつ、気持ちの良いあいさつと返事が対人関係の基本であることを繰り返し指導していく。</li> <li>・日常のあいさつと返事の場面で、やり直しも含めて改善していく。</li> <li>・あいさつについての保護者への啓発をさらに充実させる。</li> </ul>
		○生徒の「ことばの力」を高める。	よく読む生徒と全く読まない生徒が2極化しており、中間層もどちらかという読まない傾向が強い。朝読書の時間にしか本を読まない生徒や毎日違う本を読んだりしている生徒がおり、1か月で1冊読み切ることが難しい。また、記録が不十分で自分の足跡が残せていない生徒もいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝読書の時間」は必ず本を全員が持ったことを確認してスタートし、10分間を確保して、その後の記録まで習慣づける。また、「1冊読み切ること」を意識させる。さらに第2弾の新刊購入等により学級文庫の充実を図り、意欲を喚起する。</li> </ul>
		○自分の思いを表現する力を高める。	生徒の語彙力が高まっておらず、自分の思いを表現する技能が習得できていない。また、内容が一日の出来事などに終始しているものが多く、自分の生活を振り返り、高めようとする意識が十分育っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業による終末の振り返りを定着させ、書くことの習慣化を目指す。</li> <li>・自立ノートに、一日の出来事から感じたこと考えたことを具体的に書くよう指導する。</li> </ul>
**	かけがいのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人かけがえのないのちであることを自覚できる。	生徒の自己肯定感は昨年度(53%)から大きく上昇(71%)したが、自分の良さを回りから認められているとの回答は38%と極めて低い。自分の良さを見いだしている生徒も、その良さが回りから認められていないと感じている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・クラスの中で、お互いの良さを認め合う集団作りをさらに進めていくために「今日のMVP」の取組を進めていく。</li> <li>・否定的に評価している9%の生徒には、個々の思いを引き出す場(個人面談や自立ノートの活用)を設定し自己肯定間の向上を図る。</li> </ul>
		○いじめを許さない学校風土を作る。	平成20年度から「いじめ撲滅キャンペーン」を行い、全校生徒一人一人を対象に丁寧に教育相談を行った成果が表れていると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHKいじめを考えるキャンペーン「100万人の行動宣言」に全生徒が参加し、いじめを許さない学校風土作りをさらに進めていく。</li> <li>・これまでの取組を継続し、気になる生徒の悩みの解消に努め、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。</li> </ul>
*	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。  生徒の体力向上を図る。	○思考力、表現力を高める。	「思考する」「表現する」という意識が生徒の中で希薄であるので、アンケートの肯定的評価は一定でない。それは教職員の指導が徹底しきれていないためであり、「比較させる」「理由を考えさせる」という観点での問いかけが少ないことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を実施していく中で、互いに意識を高め、成果と課題を共有し日々の授業の向上を図る。また、先進校の視察を還元し、質を高めていく。</li> </ul>
		○課題のある柔軟性を向上させる。	長座体前屈において、県平均(H25)を上回る生徒 1年男子 30.0% 1年女子 83.3% 2年男子 41.7% 2年女子 41.7% 3年男子 61.1% 3年女子 46.2% 県平均を上回る生徒が52%であり、依然として柔軟性に課題が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科の授業で、準備運動の中に、柔軟運動を取り入れる。また、長期休業中に、ストレッチの課題を出す。</li> <li>・運動部活動の顧問と連携し、各競技に応じたストレッチを継続して行う。</li> </ul>

平成26年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間 最終 )

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	子ども達の一人一人の事を考えて、適切な目標が設定されている。指標は、やや高すぎる様にも思うが、難しい課題に向かって、先生方がよく頑張っていると感じている。特に「いじめ」に関しては、社会や地域の関心も高いので、子ども達の心をしっかり育てて欲しい。
目標達成のための方策の適切さ	A	地域と学校が、共に子供を育てる「あいさつがひびきあう警固屋をめざして」の取組が、着実に成果を上げている。子ども達は本当によくあいさつをするようになり、地域が明るくなった。体力向上については、保健体育科、部活動以外で、さらに運動の機会を増やしていく工夫が必要なのではないか。
自己評価の結果と分析の適切さ	B	適切な分析である。悪いところも隠さず、一覧にまとめ、改善していく姿勢を示しているところに、学校側の開かれた姿勢と、先生方の意気込みを感じる。
今後の改善策(案)の適切さ	A	課題解決のための具体的な改善策が講じられている。中でも「今日のMVP」のは、子ども同士がお互いに認め合う場を設定していくことで、高い効果が期待できるすばらしい取組だと思う。体力向上の柔軟性については、各家庭に協力を呼びかけてはどうだろうか。
その他		<p>○いじめについて、アンケートや個人面談等を通して、十分に把握されており、また気になる事案については適切に対処されている。安心して子どもを学校に送り出せる。</p> <p>○社会に出て、「表現力」や「自分の考えを伝える」ことの大切さと重要さを感じている。表現力の育成については、今後も力を入れていって欲しい。</p>

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○体力向上に関して、「体力向上に関する指導方法等改善計画」は、ホームページに掲載しているものの、保護者への周知には至っていない。本校生徒の実態や取組について広く知らせると共に、柔軟性の向上については、各家庭での協力を呼びかけていく。</p> <p>○学校と地域が協働的に子どもを育てていく「あいさつがひびきあう警固屋をめざして」の取組は、警固屋地区のアメニティ環境の創造につながっている。より高い目標を目指して、小学校と共に更に積極的に地域に働きかけていきたい。</p>
--------------------	--